

		音 楽 研 究 会 部 会 記 録			
日時	平成30年 1月 10日 (水) 15:30~16:45				
部会名	研修部 授業実践部会			主任	今泉 美保
参加数	28名	司会	今泉 美保	記録	須田 直之
研 修 内 容	「合唱・器楽指導における指揮」 講師：東部学校教育事務所 主任指導主事 高山俊哉先生 場所：横浜市立桜岡小学校				
	<p>○指揮をするということは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指揮法は、プロの指揮者を見ると個性的に見えるけれども、基本的なことがしっかりとあり、最終的には、サイトウ・メソッドに辿り着く。 ・指揮棒は使うのが正のか、正しくないのかという疑問があるが正解はなく、指揮棒は手の延長であるということを理解しておくといい。また、合唱で使うならば、短めのものを選ぶといい。 <p>○指揮の基本的な構え方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下の位置は、手を曲げて肘を90度（地面と水平）に。 ・上の位置は、下の位置からこぶしを額の前まで上げていった位置に。 ・指揮棒は手の延長（上腕の延長）であり、親指が上になる（爪が上になる）のが基本。 <p>○指揮の基本的な動き</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 叩き【ボールが跳ねているように】マーチのように、音楽が拍節的な動きのとき。 ② 平均運動【レガートの時】勢いをつけてはいけない。全部同じスピードで。 （「エーデルワイス」など、拍節的でない「曲線的」な動きのときなどに用いるとよい） ③ しゃくい【叩きと平均運動が合わさったもの】。指揮の8割ぐらいがしゃくいである。 → この3種類を使えると、ほとんどの指揮ができる。 <p>※指揮は、自然の法則のまま行われることが大切なので、不自然な動きはしないこと。</p> <p>○より繊細な動きを目指して、指揮棒を使わずに手首を使った指揮をするために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・より繊細な表現をするために、「2小節の中で変えないといけない」という指揮者がいる。 ・指揮棒を持たずに行う場合、打点を中指の先で叩いてあげる感じで指揮をすること。 <p>○実践編「実際の曲を指揮するために」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに伝える時は、音楽が縦ノリなのかと横ノリなのかを考えること。 ・ピアノの伴奏は、縦ノリなのか横ノリなのかを判断するのにいい材料で参考にはなるけれど、そればかりにひきずられてしまっていけない。 ・サビなどで、伴奏の形は変わっていないけれど、音楽の雰囲気が変わる時、そこで感じたことを指揮すること。例えば、横の動きから、縦の動きになっていく。すると、平均運動から叩きっぽくなっていく等。 ・最初は、指揮者と伴奏者の関係なので、そんなに出さなくていい。そのため、予備拍は少なければ少ない方がいい。理想は4拍目だけ合図を出して音楽が始まること。 ・体育館で音楽をすると、もたつきがちなので、4拍目で少し煽ると効果的である。 ・指揮は、いろいろ研究すると面白いので、試行錯誤をしていくことが大切である。 				